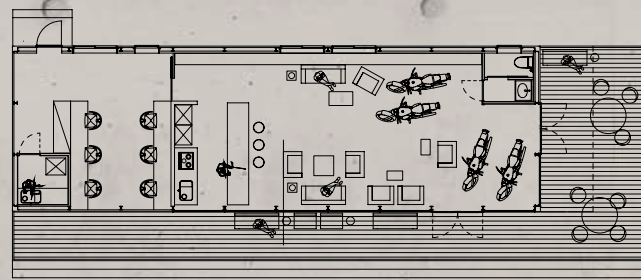
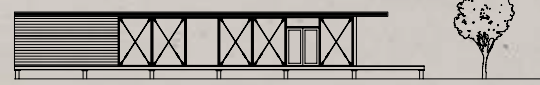


FLOOR PLAN



長手10スパン、短手3スパンという最も効率的な高床式建物です。縦横比率のプロポーションも均整がとれています。平屋建では上に乗る荷重がないので、トラス梁を利用することで最大スパンの3スパン=5.4mを柱のない空間にすることができます。向かって左は運営上の事務所スペースです。新車バイクやカスタム対応などの営業をしながらカフェを運営する施設になっています。



均整のとれた10スパンのプロポーションですが、右側のルーフトレッキを伸ばしていくことで、道路からの見た目の魅力がさらに強調されます。通り過ぎても戻ってきてしまうほど。

Theme

21世紀人の賢い住宅のカタチ 現代の茶店、街道筋の モーターカフェについて考える

街道筋の一定の距離ごとに、旅人が疲れをいやす場所が必要。今のニッポンにはバイクツーリングの為に基礎環境がない。そこで今回はモーターカフェの理想像を考えます。



×
30
PANELS

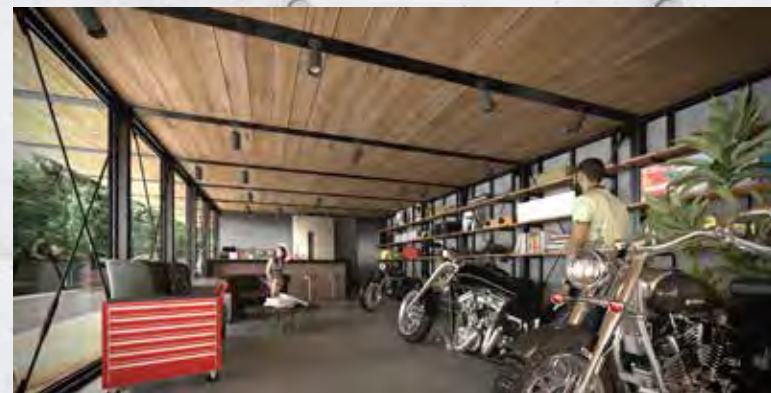


ツーリングルートにあたる道路からの視認性。一度見たら是非入りたくなるような建物がコンセプト。ミッドセンチュリースタイルを踏襲した、底の美しさが、内部の空間へ旅人を誘います。名物のホットドッグとうまいコーヒーがあると事前に知っていれば、誰もがここを休憩ポイントにしたいくなります。この先のルートの情報も、ここに来れば仕入れることができます。こんな施設が一定距離ごとにあれば、旅はもっと楽しくなりますね。



カスタムバイクとゆったりしたカフェ空間。ここは地元仲間が集う場所であると同時に旅の人たちが疲れをいやして空気を満たし、バイクに給油もできる憩いの場であるわけです。四角88か所をいえば起点にあたる宿坊に様な位置づけの空間です。

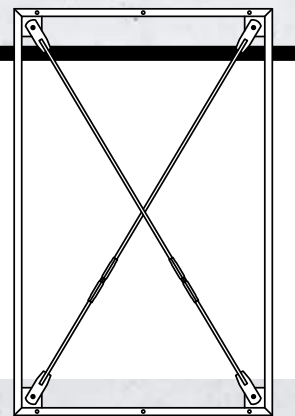
道路と反対側の壁面にはデイトナハウスオリジナルの棚金物でディスプレイも自由自在です。構造体と同じ粉体塗装の棚金物。まさに構造体が家具になる瞬間です。天井に天然木、床はモルタル。骨の一部をラインで見せれば永い間愛着が持続する建物になります。"理屈の世界"ではない"自由の社会"ならではの空間です。



社会は相矛盾する二つの性格を持つています。よく、ハレとケ」と表現される二重性です。私たちの祖先は約1万年前、長い流動民の生活から大規模定住社会を選択。その変化が縄文時代です。定住すればたくさんの人を養えるが、その代償は大きい。すぐに日常(ケの社会)が煮詰る。だから先人たちはシステムとして、自由な時間感覚の非日常ハレの社会を組み込んだのです。代表的な例が祭です。祭りは無礼講。祭の時間感覚は普段とは違います。とは言え、高度成長期、共同体が解体してその二つの社会というシステムは崩壊し始めています。しかし、コミュニティシ

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。



INFORMATION LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

ョン技術の発達で、今新たに二つの社会が浮かび上がってきました。まじめな固定化生活と、自由な漂泊生活。理屈の社会と自由の社会。その両方をバランスよく営むのが21世紀人の賢い作法かもしれません。バイクツーリングは、目的地に合理的に最短距離で到着することが目的ではなく、道中の気候風土や事物を肌感覚で味わう旅だとすれば、それは、自由の社会に属するものです。今回はそれにふさわしいモーターカフェを提案してみます。

デザインはミッドセンチュリースタイル。外部の環境に対して大きく開放された直線のデザイン。工法は高床式。ロードサイドに農地転用の場合、道路から約1m以上道路面が下がっている場合が多く、余分な擁壁や基礎を作らない合理的な手法とデザイン性を兼ね備えています。ソフト面であるカフェは地域のコミュニティの起点になるもので、遊牧民同志のネットワーク構築場所としても一役買います。ツーリングルートのある一定の距離ごとに、こんな旅人向けの憩いの場所がある。2ヶ月に1回でも旅をすることで、あなたもまた現代の遊牧民になるのです。

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk), Soma YOKOI